



### 今月は「シリア」を覚えてお祈りください

シリアは中東・西アジアの共和制国家。北にトルコ、東にイラク、南にヨルダン、西にレバノン南西にイスラエルと国境を接し、北西は東地中海に面する。首都はダマスカス。

### シリアの経済・政治・宗教について

シリアの経済活動の中心は農業、原油また観光業だがその規模は小さい。軍事費は大きく、政治や経済界には腐敗や癒着が蔓延している。経済はイランやベネズエラとの経済協定によって改善しつつあるが、国連などの国際支援から多くの援助を受けている。特に若い世代の失業率は非常に高い。

ダマスカスには人々が昔から住んでいる所で世界で最も長く人々が住んできた町であるとされている。シリアは1946年にフランスから独立した。1973年からレバノンのことに介入しており、これは国連やアラブ諸国の了承を得ている。国際社会からのプレッシャーと中東の不安定な情勢がシリアの外交方針に大きく関わっている。

フランスから独立後、国教は所有していないが国民の大多数はイスラム教に属している。

### シリアのその他の情報

面積:185,180 km<sup>2</sup> (日本の約半分) 人口:22,505,091(日本の約 17.7% 2010年時点)



首都「ダマスカス」



シリア戦争の被害の様子

宗教:	
イスラム教	90.00%
キリスト教	6.34%
その他	2.25%
無宗教	1.40%
バハイ教	0.01%

**「主は地の果てまでも戦いをやめさせ、弓をへし折り、槍を断ち切り、戦車を火で焼かれた。」 詩篇 46:9**

### 祈禱課題

#### 未伝部族・民族を覚えて

イスラム・スンニ派に属するアラブ人—彼らの大多数は福音を一度も聞いたことがない。  
 イスラム・アラウィー派の人々—シリア北西の海岸地域に居住するシーア派の一分派。大統領候補者を輩出している少数派の民族。彼らは軍や政府に強い影響力を持っている。正統的なイスラムの教えから枝分かれして、キリスト教に通ずる可能性をもつ教えを信じている。  
 イスラム・ドゥルーズ派の人々—シーア・イスマイール派の一分派。シリアの南に住む彼らもイスラムから密かに枝分かれしている。接触するのに困難とされてきたが、近年は応答が増えており、少数だがクリスチャンたちがいることが確認されている。  
 クルド族—北や北東に住むこの民族は普通のアラブ人たちにくらべて受容的であるとされている。この民族の中には少数の正教会キリスト教徒がいる。大多数はイスラム・スンニ派に属している。  
 ベドウィン人、チェルケス人、トゥルクメン人、ジプシー(ロマ)人—これらの部族のほとんどが未伝である。ジプシー人やベドウィン人に対してはクリスチャンの働き人が数名働いている。

#### 中東におけるシリアの立場と役割を覚えて

新しい大統領は若くして立ち、経済的な課題、少数民族との複雑な関係など、シリアがしっかりと立っていくために乗り越えなければならないことが多い。中東における完全な平和は、シリアの介入なくして訪れることはないと考えられている。神がシリアを用いて中東に平和をもたらせてくださるよう祈らなければならない。

#### シリアでは少数であるキリスト教徒たちを覚えて

シリアのクリスチャンたちは他の中東の国々にくらべて自由で安定した生活を送ることができる。正教会とカトリック教会はイスラム教が国に広がる前からシリアに存在しており、教会には多くの敬虔なクリスチャンがいる。クリスチャンの多くはアラブ人だが、アルメニア人クリスチャンコミュニティも存在する。クリスチャンたちの多くは都市部に集中している。しかし、家をもつことや就職することは差別もあって難しいのが現状だ。実際的な信教の自由が認められなければならない。